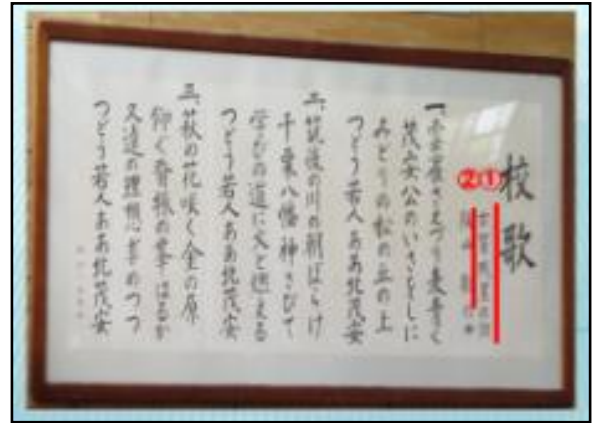


○10月全校集会講話

今年も本校教育目標を「北茂安中学校生徒としての誇りを持ち、自信と意欲をもってたくましく生きる生徒の育成」と設定し、目標達成のための方策の一つとして、北茂安地区や母校を是非好きになってもらいたいという願いを込め、全校集会時に北茂安の歴史や学校の歴史、校歌の由来等について話をしています。

前回は、校歌の作詞者：古賀残星氏について話をしましたが、10月の全校集会は9日（火）に校歌の作曲者を話題にしました。

陶山 聰（すやま さとし）氏は鳥栖市出身で、鳥栖地区の小中学校の教諭をされていました。また、佐賀県の東部地区を中心に校歌や社歌など3000以上の作曲をされた音楽家でもありました。近隣の中学校では、鳥栖中、田代中、基里中、鳥栖西中、三田川中、神埼中、三瀬中、北山中などの校歌も作曲されています。



陶山 聰（すやま さとし）

鳥栖市出身 1907～1999年

鳥栖の小中学校教諭

校歌や社歌 **3000以上作曲**

【小学校】

鳥栖小、麓小、旭小、三根東小、三田川小、東脊振小

【中学校】

鳥栖中、田代中、基里中、鳥栖西中、三田川中、神埼中、三瀬中、北山中、**北茂安中**

【高校】

鳥栖商

陶山氏にまつわる話としては、『月光の夏』という題名で特攻隊員が出撃前にピアノを弾いたという話が映画化されましたが、そこに登場するドイツフッペル社のピアノは、昭和6年に陶山氏が実際に自分で弾いて選んだといわれています。鳥栖の婦人会の方々は、鳥栖の子どもたちに一流の音楽を味わわせたいという願いから寄付金4500円（現在価値1億円以上）を集められ、ピアノの選定を陶山氏に委託されています。（※本校体育館のグランドピアノは210万円しています）最終的には、フッペル社のピアノが選ばれます。このピアノは、手作りの最高級品として定評があり、当時国内に2台（現在は3台）しかなかったそうで、鳥栖尋常小学校に寄贈されました。映画では戦争末期の昭和20年6月に沖縄に特攻隊として出撃を控えた隊員2

名が鳥栖国民学校（現在の鳥栖小学校）にグランドピアノがあることを知り、最終出撃基地である鹿児島県の「知覧」（ちらん）に向け出発する前に、目達原訓練基地から線路伝いに歩いて鳥栖の学校まで行き、ベートーベン作曲「月光」という曲を弾いたというストーリーです。この話は、若干脚色され、事実とは異なる部分もあるようですが、戦争末期に実際に兵隊さんが「月光」と「海ゆかば」という曲を弾かれたことは事実のようです。現在そのピアノは、サンメッセ鳥栖に常設されています。

ドイツフッペル社のピアノ

1931年（昭和6年）

鳥栖市婦人会子どもたちに最高の音楽を



当時4500円（＝現在1億以上）寄付金

陶山 聰先生が実際弾いて選定

当時国内に2台しかない最高級品（現在は3台）

・鳥栖 知覧 宮崎県日南市の小学校

陶山 聰 氏にまつわる話

サンメッセ鳥栖に展示



ドイツフッペル社のピアノ